

授業づくりのポイント シリーズ①

～目標、ねらい及び主眼を構造化する～

学校訪問の際に、各校に準備していただいている板書計画で、主眼の構造について、課題が見られます。下記の例を参照して板書指導案等の作成にご活用ください。

※主眼… 1 単位時間の目標やねらい

○ 育成を目指す資質・能力を育む観点から

次期学習指導要領の改訂に向けた答申において、「何を学ぶか（教科等の学習内容・学習の意義等）」「どのように学ぶか（学びの質の重要性、「アクティブ・ラーニングの視点）」「何ができるようになるのか（育成を目指す資質・能力）」の三つの柱が示されています。

○ 単元目標の構成から

単元目標は、どのような学習を通して、児童生徒にどのような内容を学ばせ、どのような資質・能力を育成することを明確に示したものです。

（学習指導要領解説 総合的な学習編）

この単元目標に準じて、1 単位時間の授業が構成されなければなりません。

※音楽科、図画工作科、美術科、体育科、保健体育科、技術・家庭科、道徳では、単元より題材を用いるケースが多い。

○ 目標や主眼の構成要素について

1 単位時間において、どのような内容について、どのような学習活動を行いながら、どのような資質・能力をつけるのかを、教師側が整理してもつことが必要です。

資質・能力を育む
ための目標や主眼の
構成要素

- ① 学習内容（～を、～について）
- ② 学習活動（～を通して、～でまとめて、～に整理して等）
- ③ 資質・能力（～できるようになる）←評価規準の4観点から

例①

社会科（小学校 4年）

①佐伯市の地域の特色について、②自然環境や土地の利用方法について白地図などにまとめて整理し、③地域によって違いや特色があることを理解できる。

例②

保健体育科（中学校 2年）

①平泳ぎの特性を、②手と足、呼吸のバランスを自分のペースと合わせながら泳ぐことで実感し、③安定したペースで長く泳ぐことができる。

※教員個人の思いや経験に留まらず、作成した板書計画指導案を教務主任や研究主任が教育課程や国立教育政策研究所作成の資料等で確認しながら、各教室の授業の質を確保していくことが大切です。

次は、よくあるエラー例です。参照して、板書指導案の見直しに活用してください。

【エラー例その1】

「資質・能力」のみで、「学習活動」や「学習内容」が示されていないもの

(小学校2年算数科)
かけ算九九を使って、身の回りにあるものの数を数えることができる。

(中学校1年 家庭科)
商品の販売方法と支払い方法の特徴が分かる。

どのような学習内容や学習活動を通してその力を付けていくのかがはっきりしません。授業において、「付けたい力」をどのような学習内容を扱い、どのような学習活動で迫らせていくかを主眼にまとめておく必要があります。

身の回りにあるものの数の数え方について、一つのまとまりのいくつ分の考え方と九九表をつなぎながら見つけて、身の回りにあるものの数をかけ算九九を使いながら数えることができる。

インターネットの書籍販売について、地域の書店との販売方法のメリットやデメリットを比較しまとめる活動を通して、商品の販売方法と支払い方法の特徴が分かる。

【エラー例その2】

「学習活動」の記述はあるが、本時ならではの学習活動が具体的ではなく、一般的な学習活動になってしまっているもの

(小学校6年算数科)
既習事項を活用して数を求めることができる。

(中学校2年 外国語科)
ペア活動やグループ活動を通して、関係代名詞を用いて佐伯市を紹介する文を作ることができる

「既習事項を活用」したり、「ペア活動やグループ活動」したりする学習活動は、この授業だけでなく、日常的に様々な授業において行われます。主眼には本時ならではの学習内容や活動を記述する必要があります。

表の数値の変化について、比例の性質を活用して、キャップの個数と重さを式に表し、全部数えることなく求めることができる。

A L Tに佐伯市を紹介する場面で、関係代名詞を用いて、お勧めの名物とその理由を紹介する文を作ることができる。